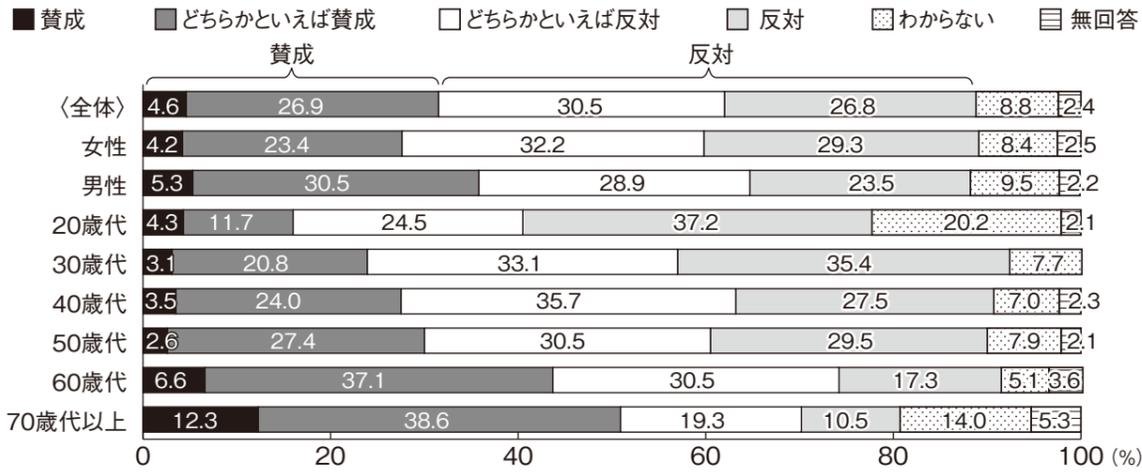


男女共同参画に関する 市民意識調査の結果を報告

市では、市民の皆さんの「男女共同参画」に関する意識や実態の変化を把握するため、昨年10月に市内の20歳以上の男女2,000人を住民基本台帳から無作為に抽出し、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。今号では、840人（回収率42%）の皆さんから回答があった、同調査の結果の一部をお知らせします。

なお、すべての結果については市のホームページで見ることができます。

◆グラフ2 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方について



■男女の地位の平等感
 「社会全体」「家庭生活」「職場」など8つの分野について、男女の地位が平等になっているかを尋ねたところ、「平等」と答えた人が最も高かったのは、④学校教育の場の53.0%、次いで⑧地域活動の43.5%、⑥法律や制度上の38.2%となっています（グラフ1参照）。

一方、「女性が優遇されている」と考えている人はどの分野においても少なく、「男性が優遇されている」と答えた人の割合が圧倒的に多くなっています。①社会全体で見た場合、約7割の人が「男性の方が優遇されている」と感じています。不平等と強く感じる事がらと

としては、婚姻のときに女性の姓を選択することが多いこと、共働きであっても家事・育児・介護は女性の仕事とされていること、職場では給与・昇進・採用面で格差があること、出産のときに仕事を辞めざるを得ない女性が多いこと、重要な役職は男性が多く女性の管理職が少ないこと、などの意見がありました。

また、「法律や制度上の平等感」は38.2%となっていますが、「社会通念・慣習・しきたり」では、平等と考える人はわずか1割であり、法律や制度では男女平等がうたわれているものの、その概念が社会に浸透するまでには至っていないという実態がうかがえます。

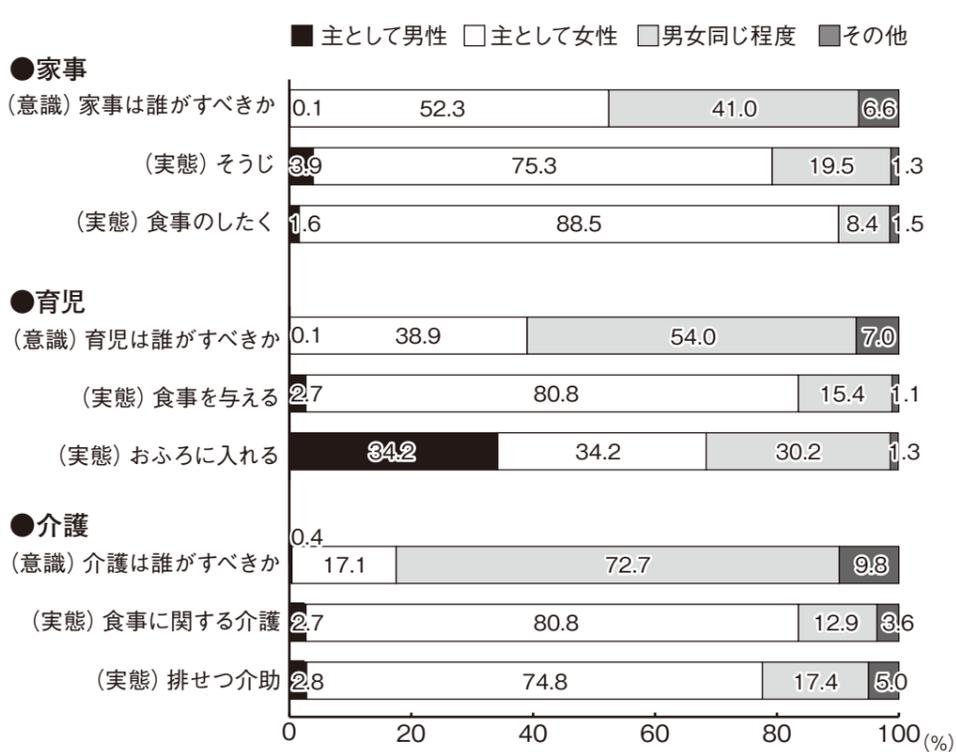
■固定的な性別役割分担の意識
 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって役割を固定する考え方について尋ねました（グラフ2参照）。全体では「賛成」と答えた人が31.5%、「反対」が57.3%となっています。

男女別で見ると、賛成は男性（35.8%）が女性（27.6%）より高いことから、性別によって役割を固定する考え方は、男性の方が強いことがわかります。また、年代別で見ると賛成と考える人は、年齢に比例して高くなっています。

こうした考え方は、時代とともに変わりつつありますが、現実の社会や家庭では家事や子育て、介護などは女性の役割と認識されるなど、固定的な性別役割分担の意識が、いまだに根強く残っていることがわかります。

■家事や育児、介護に関する意識と実態
 家庭生活の中で家事や育児、介護は誰がすべきかを尋ねたところ、家事で41.0%、育児で54.0%、介護では72.7%の女性が「男女同じ程度」するべ

◆グラフ3 家事などの役割分担意識と実態



きと考慮しています（グラフ3参照）。

一方、結婚している人（育児と介護については経験者）にその実態を尋ねたところ、育児の割合が高くなっていること、おふろに入れる「行為を除くすべての行為で、「主として女性」の割合が高くなっていることから、実態は女性の負担が大きくなっていることがわかります。

◆グラフ1 さまざまな場における男女の地位の平等感

